

令和5年度学校関係者評価報告書

学校法人川江学園
お宮の里幼稚園

1. 本園の教育目標

「心豊かdeganばる子ども」の姿を目指して、子どもの好奇心や探究心を引き出す環境を整え、遊びを通して様々な学びや体験ができるよう援助していくことで子ども達の人間形成の基礎を培い、心身の発達を助長する。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本年度は職員の入れ替わりが多かったため、本園の教育理念、教育方針の理解の定着を図るために職員間による話し合いを進め、教育方針に基づいた保育を計画できるよう取組指標、成果指標を設定した。

3. 評価項目の取組と成果

総括評価 A:達成できた(4) B:概ね達成できた(4未満~2.6) C:一部改善を要する(2.6未満~1.5) D:改善を要する(1.5未満)

重点的に取り組む目標	評価項目	評価指標 及び 評価結果					自己評価結果			
		基準	取組指標	取組結果	基準	成果指標	成果	総括評価	取り組み結果・成果などに関する教職員の主な意見	
重点的に取り組む目標	好奇心を育む環境構成	4	子どもと一緒につくる環境構成	3.0	4	子どもと話し合う場を作り、子どもの興味関心のある環境と一緒に作るようになった	2.6	B	学年や時期(学期)によって子どもと一緒に環境を作る難しさもあり、達成できなかった部分がある	
		3	子どもの興味関心のあることを掲示したり、コーナー作りをするなどの環境構成		3	一緒に掲示物を見て言葉をかけることで子どもの好奇心や意欲が高まる姿がみられるようになった				
		2	子どもが好奇心を持って探究できるコーナーを準備する		2	子どもが現時点で好奇心がわいてくる材料や見本を準備できるようになった				
		1	同学年担任と環境構成について話し合いをする		1	子どもの興味関心の高いコーナーの充実とそうでないコーナーを再構成することで一つのコーナーに集中することが少なくなった				
	教育方針に基づいた保育計画の策定	子どもの興味関心の読み取り	4	これまでの経験(学び)を踏まえた子どもの姿と興味関心の移り変わりを整理する	2.6	4	子どもの遊びを経時的に説明することができるようになった	2.5	C	子どもの興味関心の移り変わりを経時的に説明できるようになってきたものの、主体的に遊びを広げる援助や言葉かけが出来なかったため、指標項目「3」と「4」を入れ替えた方が望ましいと思われる
			3	保育者のかかわりによる遊びの広がり		3	子どもが主体的に遊びを広げられるためのかかわりや言葉かけができるようになった			
			2	子どものつぶやきや行動から興味関心を把握する		2	遊びの中で子どものより深い興味関心に目を向けて、言葉をかけられるようになった			
			1	子どもの遊びの中に入って一緒に遊ぶ		1	子どもが主体的に進めることを大事にしなが一緒に遊んでいる			
	子どもの興味関心を踏まえた保育計画	子どもの興味関心を踏まえた保育計画	4	保育を実践した結果を同僚と話し合いながら検証する	2.9	4	同僚との話し合いで、遊びの広がりについて視野を広げて考えるようになり、それを保育計画に活かせるようになった	3.0	B	総じて自由遊びから一斉保育への展開、連続性に難しさを感じている。一斉保育による学びの要素を自由遊びからの展開で入れ込むためにも教育課程や体験目安表の理解を進めていく必要がある
			3	子どもの興味関心を一斉保育へ展開していく		3	子どもの興味関心と学びを結び付けた保育を考えるようになった			
			2	子どもの姿を踏まえた遊びの広がりについて同僚と話し合いをする		2	子どものつぶやき、行動等について同僚と共有するようになった			
			1	遊びの広がりや保育計画について園内研修を行う		1	遊びの深化や広げ方についての話し合いを繰り返すことで子どもの姿に対する観察眼が養われてきた			

4. 総合的な評価結果

評価	評価の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> 重点的に取り組むべき目標や計画、課題について、全教職員が認識し、自己点検・自己評価に取り組み、自らの保育や計画の策定を振り返ることで、段階的に改善することができたと思われる。 子どもの興味関心の読み取りについて全体的に評価が低い傾向にあることから読み取りについて教諭間での話し合いや外部講師との共有会議を進めていく必要があると思われる。 各項目に対して新たに発見された課題もあるため、今後の自己評価へ反映させて、課題の解決に努めていく。

5. 今後取り組む課題

	課題	取り組み方法
1	保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針の更なる理解を深めるために職員間による話し合いの継続 ・外部講師を招いての勉強会の開催 ・子どもの興味関心の読み取りに基づく環境作りと保育計画の策定
2	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の設備、遊具等についての安全チェック項目の整理 ・ヒヤリハット情報の迅速な共有化 ・子どもの危険察知力の向上

6. 学校関係者評価委員会の評価

本年度は職員の入替えが多く、年度当初は新しい教職員を中心に戸惑いの姿が見られたものの、重点目標に掲げられた取組指標による段階的な取り組みにより、徐々に園の良さが出てきたように思われます。

その結果、園の教育方針が教職員一人ひとりに徐々に浸透してきており、子ども達がのびのびと楽しく活動等に取り組んでいる姿が見られます。

今後はどの教職員が担任になっても保育の質が一定水準に達せられるよう、更なる園の教育方針の浸透、定着が図られることを望みます。

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員

印

学校関係者評価委員会実施日

令和6年2月22日